

事業系ごみ処理量の現状と課題、本年度からの取り組みについて

【ごみ処理量の将来予測および数値目標】 大分市一般廃棄物処理基本計画より

(トン)

	区分	H25	H26	H27	H28	H29
家庭ごみ	可燃物	81,289	77,667	74,043	56,420	54,692
	不燃物	4,318	4,241	4,164	4,087	4,038
	資源物	25,118	26,845	28,573	44,300	44,800
	計	110,725	108,753	106,780	104,807	103,530
事業系ごみ	可燃物	42,134	41,384	40,633	39,883	39,396
	不燃物	2,218	2,178	2,139	2,099	2,074
	計	44,352	43,562	42,772	41,982	41,470
	合計	155,077	152,315	149,552	146,789	145,000

【ごみ処理量の実績と数値目標との差】

(トン)

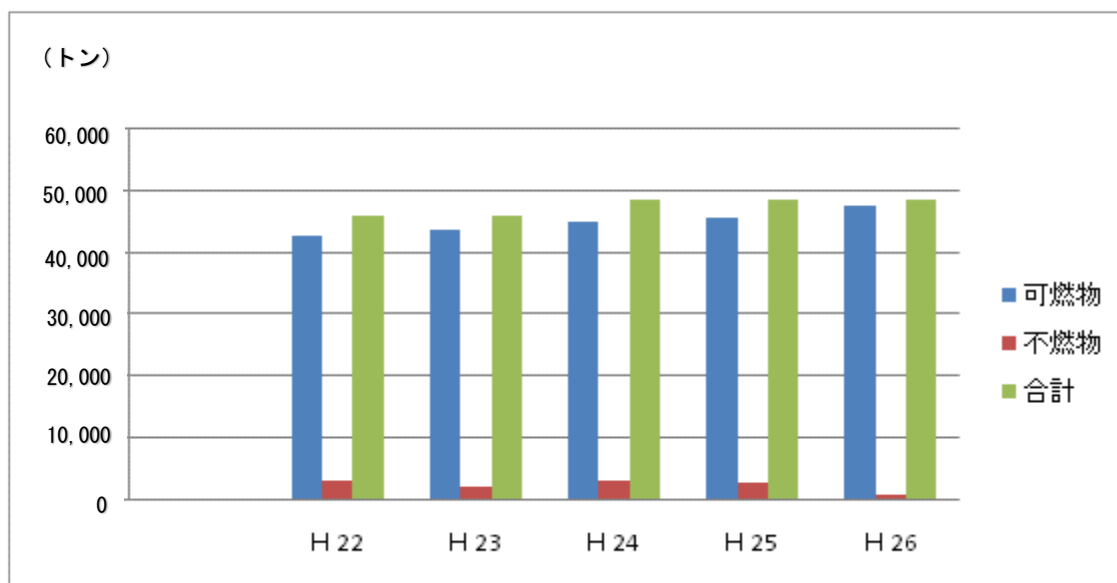
	区分	H25		H26	
		実績	数値目標との差	実績	数値目標との差
家庭ごみ	可燃物	90,507	9,218	89,527	11,860
	不燃物	5,121	803	6,012	1,771
	資源物	21,166	△ 3,952	21,260	△ 5,585
	計	116,794	6,069	116,799	8,046
事業系ごみ	可燃物	45,640	3,506	47,316	5,932
	不燃物	2,821	603	978	△ 1,200
	計	48,461	4,109	48,294	4,732
	合計	165,255	10,178	165,093	12,778

1 現状と課題

(過去5年間の実績)

(トン)

	H22	H23	H24	H25	H26
可燃物	42,507	43,665	44,986	45,640	47,316
不燃物	3,222	2,294	3,249	2,821	978
合計	45,729	45,959	48,235	48,461	48,294



- ① 市の処理施設に搬入される事業系ごみの可燃物と不燃物を併せた搬入量は、平成24年度には前年度より約2,300トン増加(約5%の増加率)し、その後は横ばい状況となっている。
本市が目標年次としている平成29年度の家ごみと事業系ごみの排出量の数値目標は、145,000トンであり、家ごみは約13,000トン、事業系ごみについては約7,000トンの減量に取り組む必要がある。
- ② 市の清掃工場で、年数回実施している搬入物の展開検査において、リサイクル可能な紙類やプラスチックなどの産業廃棄物が多く混入している状況が見受けられる。

2. 本年度からの取り組み

- ①
 - ・ 大規模事業所(120事業所)が市の処理施設に搬入している可燃物の搬入量は、各大規模事業所から提出された実績報告によると、大分市全体の事業系ごみの約7.2%(3,414トン)を占めていることから、本年度、新たな取り組みとして大規模事業所の実態調査を行うために戸別訪問を実施する。
また、必要に応じて適正な分別方法などの周知・啓発を行い、事業系ごみの減量化・再資源化をさらに推進していく。
 - ・ 大分商工会議所を通じて、事業系ごみの分別方法やリサイクルについての周知・啓発を行う。
- ② 今後も展開検査を実施する中で、事業者や一般廃棄物許可業者に対して、適正な分別方法や市の処理施設に持ち込みことが出来る事業系ごみの周知・啓発を行い、事業系ごみの減量化・再資源化をさらに推進していく。